資料2－6

琵琶湖の保全及び再生に関する施策の実施状況

■ 琵琶湖保全再生施策に関する計画(第２期) 関連事業予算 ------- Ｐ１

『守る』
■水産資源の回復の取組 ---------------------------Ｐ６
■外来魚対策の取組 ---------------------------Ｐ７
■侵略的外来水生植物対策 ---------------------------Ｐ８
■カワウ対策 ---------------------------------------Ｐ９
■琵琶湖の水草等クリーンアップ事業 ----------------Ｐ10
■早崎内湖再生事業 ---------------------------------Ｐ11

『活かす』
■やまの健康 2.0 ---------------------------------Ｐ12
■滋賀ならではのツーリズム「シガリズム」の推進----Ｐ13
■世界農業遺産を生かした農林水産業の魅力発信------Ｐ14

『支える』
■国立環境研究所連携推進事業 ----------------------Ｐ16
■マザーレイクゴールズ（MLGs）推進事業 ----------Ｐ17

琵琶湖保全再生施策に関する計画(第２期) 関連事業予算

（単位：千円）

	令和４年度当初予算額　A					令和５年度当初予算額　B					増　減　B-A				
	予算額	財　源　内　訳				予算額	財　源　内　訳				予算額	財　源　内　訳			
		国費	起債	その他	一般財源		国費	起債	その他	一般財源		国費	起債	その他	一般財源
3　琵琶湖の保全および再生のための事項	30, 783, 230	11, 740, 197	5, 442, 556	11, 508, 639	2, 091, 838	35, 988, 227	14, 245, 031	6, 224, 777	13, 206, 943	2, 311, 476	5, 204, 997	2, 504, 834	782, 221	1, 698, 304	219, 638
(1)水質の汚濁の防止および改善に関する事項	15, 677, 093	4, 497, 618	1, 608, 556	9, 399, 554	171, 365	20, 251, 124	6, 887, 748	2, 156, 464	11, 049, 163	157, 749	4, 574, 031	2, 390, 130	547, 908	1, 649, 609	▲ 13, 616
(2)水源のかん養に関する事項	10, 049, 388	5, 210, 491	2, 865, 700	1, 049, 179	924, 018	10, 077, 687	5, 088, 208	3, 000, 500	982, 476	1, 006, 503	28, 299	▲ 122, 283	134, 800	▲ 66, 703	82, 485
(3)生態系の保全および再生に関する事項	1, 247, 859	236, 595	253, 100	279, 504	478, 660	1, 430, 976	282, 217	230, 900	307, 112	610, 747	183, 117	45, 622	▲ 22, 200	27, 608	132, 087
(4)景観の整備および保全に関する事項（※再掲）	171, 505	0	0	0	171, 505	196, 485	0	22, 500	0	173, 985	24, 980	0	22, 500	0	2, 480
(5)農林水産業、観光、交通その他の産業の振興に関する事項	3, 808, 890	1, 795, 493	715, 200	780, 402	517, 795	4, 228, 440	1, 986, 858	836, 913	868, 192	536, 477	419, 550	191, 365	121, 713	87, 790	18, 682
4　琵琶湖保全再生施策の実施に資する調査研究に関する事項	298, 031	18, 593	0	97, 717	181, 721	414, 293	79, 822	0	148, 716	185, 755	116, 262	61, 229	0	50, 999	4, 034
5　琵琶湖保全再生施策に取り組む主体その他琵琶湖保全再生施策の推進体制の整備に関する事項	629, 245	5, 654	0	54, 619	568, 972	106, 347	5, 225	0	38, 204	62, 918	▲ 522, 898	▲ 429	0	▲ 16, 415	▲ 506, 054
6　琵琶湖保全再生施策の実施に資する体験学習を通じた教育その他の教育の充実に関する事項	688, 624	19, 175	0	274, 767	394, 682	746, 041	23, 824	0	287, 351	434, 406	57, 417	4, 649	0	12, 584	39, 724
合　計（※）	**32, 399, 130**	11, 783, 619	5, 442, 556	11, 935, 742	3, 237, 213	**37, 254, 908**	14, 353, 902	6, 224, 777	13, 681, 214	2, 994, 555	**4, 855, 778**	2, 570, 283	782, 221	1, 745, 472	▲ 242, 658

※「３（４)景観の整備および保全に関する事項」については再掲。「合計」については、再掲を除いている。

「琵琶湖保全再生施策に関する計画（第2期）」 令和5年度関連事業予算 【予算額 約373億円】

■ 主な増額要因：
3（1） 水質の汚濁の防止および改善に関する事項
・流域下水道事業における施設の改築更新等に伴う建設事業費の増や電気代・ガス代等の高騰による維持管理経費の増･･･約48億円の増額
3（5）農林水産業、観光、交通その他の産業の振興に関する事項
・農地や水路の整備・更新を行う県営経営体育成基盤整備事業の新規着工件数の増加等に伴う増･･･約3億円の増額

■ 主な減額要因：
3（1） 水質の汚濁の防止および改善に関する事項
・守山栗東雨水幹線の整備が完了したことによる減･･･約2.7億円の減額
5 琵琶湖保全再生施策に取り組む主体その他琵琶湖保全再生施策の推進体制の整備に関する事項
・全国植樹祭準備事業が終了したことによる減･･･約5億円の減額

琵琶湖保全再生施策に関する計画(第２期) 関連事業予算

琵琶湖を「守る」ことと「活かす」ことの好循環の創出

「琵琶湖保全再生施策に関する計画（第２期）」令和５年度関連予算　【予算額　37,255百万円】

＜内　訳＞

●水質の汚濁の防止および改善	20,251百万円	●農林水産業、観光、交通その他の産業の振興	4,229百万円
●水源のかん養	10,078百万円	●施策の実施に資する調査研究	414百万円
●生態系の保全および再生	1,431百万円	●施策に取り組む主体、推進体制の整備	106百万円
●景観の整備および保全に関する事項（※再掲）	196百万円	●施策の実施に資する体験学習を通じた教育、その他	746百万円

※「景観の整備および保全に関する事項」については再掲。「合計」については再掲を除いている。

計画の重点事項

琵琶湖を「守る」ことと「活かす」ことの好循環をさらに推進

琵琶湖を『守る』取組
- 水質汚濁の防止対策
- 水源林整備保全、鳥獣害対策
- 生態系・生物多様性保全、外来生物対策
- 水草対策、プラスチックごみ対策
- 水産資源の回復

琵琶湖を『活かす』取組
- やまの健康、しがの林業成長産業化
- 環境こだわり農業のブランド力向上
- 環境関連産業の振興
- 琵琶湖漁業の持続的発展
- 琵琶湖の活用推進

琵琶湖を『支える』取組
- 調査研究（気候変動の知見収集含む）
- 多様な主体による協働
- 環境教育・学習　広報・啓発

琵琶湖を『守る』取組

水質汚濁の防止対策

○流域下水道事業　（10,902百万円）
○農業集落排水事業　（78百万円）
○補助河川環境整備事業　（66百万円）

水源の森

◆外来魚を除く琵琶湖漁獲量
H28：947t、H29：713t、H30：770t、R1：811t 、<u>R2：759t</u>

◆オオバナミズキンバイ生育面積（年度末時点）
H30：3.2万㎡、R1：3.8万㎡ 、R2：3.2万㎡ 、<u>R3：2.4万㎡</u>

水源林整備保全、鳥獣害対策

○補助治山事業　（1,550百万円）
○県営農地防災事業　（1,279百万円）
○陽光差し込む健康な森林づくり事業　（455百万円）
○補助林道事業　（152百万円）
○湖国の森林と自然を守るニホンジカ特別対策事業　（115百万円）
○鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業　（99百万円）
○災害に強い森林づくり事業　（13百万円）
○淀川源流の森活用・保全事業　（12百万円）

生態系・生物多様性保全、外来生物対策

○侵略的外来水生植物戦略的防除推進事業　（206百万円）
○早崎内湖再生事業　（155百万円）
○有害外来魚ゼロ作戦事業　（25百万円）
○水産基盤整備事業　（17百万円）
（造成水ヨシ帯機能確保緊急対策事業）
○ヨシ群落保全管理事業　（15百万円）
新 ●カワウ銃器捕獲モデル事業　（11百万円）
○カワウ広域管理捕獲実施事業　（8.5百万円）

カワウ対策

水草対策、プラスチックごみ対策

○水草刈取事業　（278百万円）
○補助河川総合流域防災事業　（21百万円）
○散在性ごみ啓発事業　（13百万円）
○プラスチックごみ対策事業（4.3百万円）

水草刈取事業

水産資源の回復

○種苗放流事業（アユ、ニゴロブナ、ビワマス等の放流）　（82百万円）
○水産基盤整備事業（覆砂の効果調査）　（42百万円）
○「琵琶湖漁業再生ステップアップ」プロジェクト　（41百万円）
○水産基盤整備事業調査費　（6百万円）
○水産資源の最大活用に向けたスマート水産業体制整備事業　（4.1百万円）

琵琶湖を『活かす』取組

FATHER FOREST Life
イメージイラスト

◆木材生産
　県産材の素材生産量（令和3年） 99,400㎥
◆琵琶湖と共生する農林水産業
　令和4年7月に『世界農業遺産』に認定された。

やまの健康、しがの林業成長産業化

○未来へつなぐ木の良さ体感事業　（166百万円）
○森林・林業人材育成事業　（45百万円）
○しがの林業・木材産業強化対策事業（12百万円）
（県産材流通効率化、県産材流通促進、県産材海外流通推進）
○「やまと都市をつなぐ」森林山村地域活性化事業（11百万円）
○都市農村交流事業　（3百万円）

環境こだわり農業のブランド力向上

○みらいにつなぐ近江米新品種プロジェクト　（18百万円）
○「世界農業遺産」プロジェクト推進事業　（16百万円）
○環境こだわり農産物等流通・販売強化事業　（11百万円）
○オーガニック近江米等産地育成事業　（9百万円）
新 ●世界に誇る近江の宝「琵琶湖システム」まるわかり事業（4.8百万円）
○魚のゆりかご水田米魅力発信強化事業　（4.6百万円）
新 ●健康志向に対応したオーガニック茶産地育成事業（3.5百万円）
○琵琶湖とつながる生きもの田んぼ物語創造ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ
（魚のゆりかご水田の普及拡大等）（2.2百万円）

琵琶湖システムの
世界農業遺産認定

環境関連産業の振興

○滋賀ｳｫｰﾀｰﾊﾞﾚｰ・水環境ﾋﾞｼﾞﾈｽ推進事業（39百万円）
○水草等対策技術開発支援事業　（10百万円）

琵琶湖漁業の持続的発展

○しがの漁業担い手スキルアップ事業費　（13百万円）
○多様で革新的な流通モデル実践事業　（10百万円）
○びわ湖のめぐみ食文化継承促進事業　（7.7百万円）
新 ●県がセールスマンとして“湖魚”のPR・消費拡大に取り組む事業　（7百万円）
新 ●漁協経営基盤強化対策事業費　（7百万円）
新 ●ニゴロブナ生残率向上条件解明研究事業費　（3百万円）
○琵琶湖漁業ICT化推進調査事業費　（1.8百万円）

琵琶湖の活用推進

○ビワイチ観光推進事業　（44百万円）
○首都圏ネットワーク活用事業　（7.9百万円）
○「びわ湖の日」活動推進事業　（6.3百万円）
○日本遺産・琵琶湖魅力発信事業　（4.1百万円）

ビワイチ
～アプリを活用した周辺施設情報の発信～

琵琶湖を『支える』取組

◆国立環境研究所琵琶湖分室等との連携推進
◆マザーレイクゴールズ推進体制の構築等多様な主体との協働推進

調査研究

○国立環境研究所連携推進事業　（53百万円）
新 ●気候変動が琵琶湖の水質・生態系にもたらす影響と適応策に関する研究（51百万円）
○西の湖における水質改善実証モデル事業　（18百万円）
新 ●琵琶湖環境に係る連携研究の推進　（13百万円）
○ネットゼロ社会実現にむけた自然資本活用のための地域づくりに関する研究（8.5百万円）
新 ●グリーンインフラの推進に向けた河川流域が有する多様な機能の把握とその保全再生に関する研究（6.4百万円）
新 ●「滋賀の水産業強靭化プラン」推進研究　（3.5百万円）
新 ●琵琶湖沿岸の自然再生と生態系の現状評価（2.9百万円）
○湖底耕耘による漁場生産力向上実証研究　（0.7百万円）

湖底の貧酸素化への対応
（水中ロボットを用いた湖底調査）

多様な主体による協働

○協働の森づくりの啓発事業　（19百万円）
○マザーレイクゴールズ推進事業（12百万円）
○琵琶湖保全再生計画推進事業　（0.7百万円）

琵琶湖保全再生推進協議会幹事会による
琵琶湖現地視察

「マザーレイクゴールズ（琵琶湖版SDGｓ）」の推進

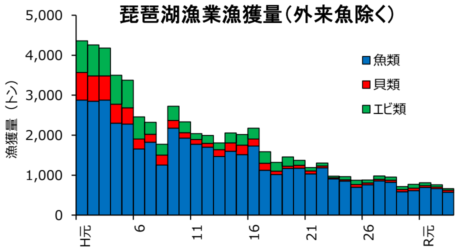
環境教育･学習、広報･啓発

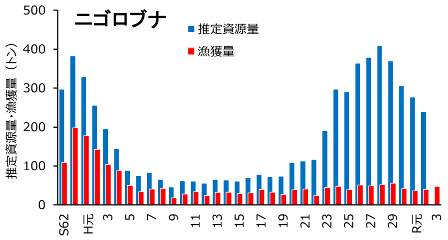
○びわ湖フローティングスクール事業　（317百万円）
○森林環境学習事業　（119百万円）
○琵琶湖博物館展示事業　（83百万円）
○湖沼問題の解決に向けた国際協力と情報発信　（5.9百万円）
新 ●自然体験を通じた環境学習推進事業　（5.2百万円）
○地球温暖化防止活動推進センター運営事業(出前講座)（3.3百万円）

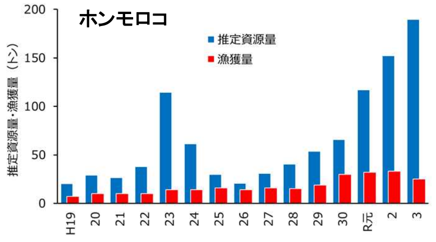
環境学習船「うみのこ」

森林環境学習「やまのこ」

水産資源の回復の取組







琵琶湖漁業の漁獲量は減少傾向が続いており、令和3年の漁獲量は670トン。ニゴロブナやホンモロコなど、資源量の増加がみられる魚種でも、漁獲は伸び悩んでいる。

水産資源回復のため、漁場環境の整備や種苗放流を実施

■砂地造成（セタシジミ）･･･琵琶湖南湖で砂地造成＋稚貝放流

これまでに約79haを造成（R4年度末）

■ヨシ帯造成(ニゴロブナ)･･･魚類の産卵繁殖機能を考慮して整備

これまでに約36haを造成（R4年度末）

奥行きを30m以上で琵琶湖の水位変動に対応

琵琶湖基準水位マイナス30～50cmの緩勾配で造成

■水産多面的機能発揮対策事業

浅場、ヨシ帯および河川などでの環境保全活動

■魚のゆりかごである南湖の再生

【課題】

○水草の大量繁茂や外来魚の繁殖により、南湖再生が困難。

○水草が南湖の9割繁茂→湖底の泥化、低酸素化

○関係機関が統合的に事業規模を拡大し、環境保全対策に取り組むことが重要

■南湖湖底環境の改善

窪地における貧酸素・無酸素状態の影響調査、シミュレーションの実施

窪地の埋め戻しや平坦化などの対策の手法の検討

■種苗放流 （R4実績）

①ニゴロブナ	全長 20mm	866万尾
	全長120mm	101万尾
②ホンモロコ	全長 80mm	11万尾
③アユ	全長 5mm	34億尾
④セタシジミ	殻長0.3～0.4mm	3581万個
⑤ビワマス	全長 60mm	29万尾
⑥ウナギ	体重50g	0.9トン
⑦ワタカ	全長50mm	13万尾

■近年のアユの漁獲状況

・H29年は記録的不漁であったが、人工河川への親魚放流量の増加対策等によりH30年以降はほぼ平年並みに回復

・令和2年4月以降は、資源は十分であっても、外食等の需要低迷により漁獲調整が必要になる等の影響

→新たな流通チャンネルの拡充等による販売力強化が課題

・R5年は、水産試験場によるアユの魚探調査結果において、2月以降、平年の3割以下が続き、漁獲も全体として低調特に3月から5月上旬にかけて、不漁の傾向が著しかった

■漁場環境の新たな課題

・近年、アユ、ホンモロコ、セタシジミ等の水産資源に成長不良や栄養状態の悪化が認められる年あり

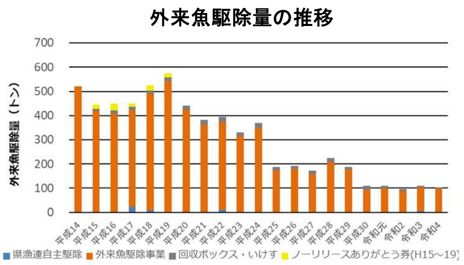
→漁場生産力の低下が懸念される

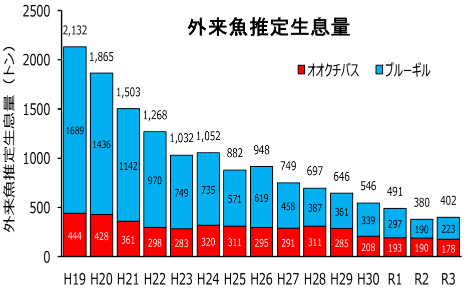
ニゴロブナ

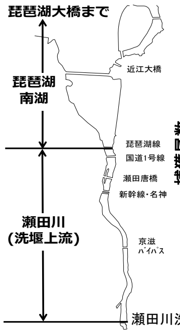
ホンモロコ

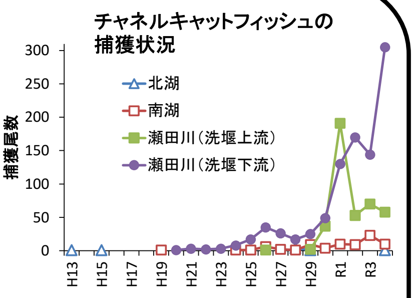
アユ産卵用人工河川

外来魚対策の取組









オオクチバスやブルーギルなどの外来魚の生息量は、平成19年の2,132トンから令和3年は402トンと着実に減少させることに成功しているが、ブルーギルに比べ、オオクチバスの減少傾向は緩やかとなっている。また、チャネルキャットフィッシュが瀬田川を中心に増加傾向。

琵琶湖における生態系や漁業への被害を防止するため、徹底的な防除を実施

○駆除促進対策事業･･･

漁業者による外来魚捕獲に要する経費の補助

捕獲した外来魚の回収および適正処理に要する経費の補助

チャネルキャットフィッシュの緊急駆除

○外来魚産卵期集中捕獲事業･･･琵琶湖南湖などで産卵期に外来魚を集中駆除するための電気ショッカーボートの運用・維持管理

○外来魚駆除対策検討会事業･･･効果的な駆除を実施するための進行管理

○外来魚駆除対策研究･･･効率的な駆除技術の開発

○「琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」により、 釣り上げた外来魚のリリースを禁止し、回収ボックス、回収いけすを設置して回収

漁業者による捕獲（刺網）

電気ショッカーボートによる捕獲

回収した外来魚

回収ボックス

施策実施状況（滋賀県）　侵略的外来水生植物対策

Mother Lake 滋賀県

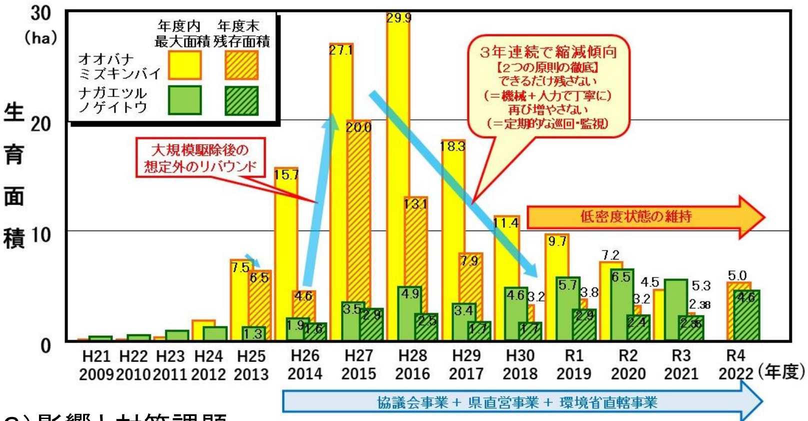
（1）侵略的外来水生植物：オオバナミズキンバイとナガエツルノゲイトウ

速い成長速度：
　広大なマット状に群落を成長させ水面を覆う
高い分散能力
　茎・葉の断片から別個体として成長（栄養繁殖）
　水とともに各所に運ばれて分布を拡大
　（オオバナは種子繁殖も行い水鳥による分散も）
柔軟な生態：
　陸上に運ばれても生存し続ける（水陸両生）

オオバナ ミズキンバイ

ナガエ ツルノゲイトウ

（2）生育状況の経緯



（3）影響と対策課題

生態的影響
　湖岸植生への影響（他の植物の競争的排除）
　魚貝類等の生息環境の劣化（群落下の無酸素化）
社会的影響
　漁業活動の阻害（エリの倒壊、罠の設置困難等）
　船舶航行の支障
　農地への侵入（増殖すると深刻な悪影響）
　利水・治水への影響（繁茂による通水障害）

➡ 悪影響を低減させるために**低密度な状態を維持**することが当面の課題

数千m²におよぶ広大なマット状群落が水面を覆う

群落に包囲された船舶

（4）令和4年度の取組

A. 取組の内訳
①対策事業（協議会）：巡回・監視による分散リスクの高い群落の駆除、仮置き、焼却処分（5事業）
②回復施設整備事業（県直轄）：自然公園域外で対策事業と同様の内容の事業（3事業）
③巡回・監視事業（協議会）：県漁連を通じ南湖8漁協による巡回・監視の実施（2事業）
④分布・生育状況調査事業（協議会）：現状把握に基づく事業実施の適正化（2事業）
⑤駆除困難箇所への対策事業：
　敷設した遮光シートの修繕：群落の枯殺による除去
　新たなオオバナ除去手法「淀川方式」 の試行
⑥広報・啓発、活動支援：協議会構成員等と連携
⑦農地侵入対策：関係機関と連携し営農者へ普及・啓発

石組み護岸に遮光シート敷設

淀川方式による駆除

水田に侵入したナガエ

B. 経費の負担
・琵琶湖外来水生植物対策協議会事業
　県費＋国費（生物多様性保全推進交付金）
・県直轄事業
　県費＋国費（生物多様性保全回復施設整備交付金）
＜参考＞
・琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業
　漁協を中核とする地域協議会の活動の一環として外来水生植物を駆除

（5）現状評価

一部の箇所で生育面積の増加を招いたが、生育面積の増加の顕著な5箇所を除くと、年度末残存生育面積は**低密度状態を維持**している。そのうち、伊庭内湖では、年度末に淀川方式を大規模に実施し、岸沿いに生育する群落の生育面積を大幅に縮減させた。

（6）今後の課題

・令和4年度に生育面積が顕著に増加した箇所を中心に、巡回・監視と早期駆除により、低密度状態を維持する。
・緊急的対応として、伊庭内湖では、浮遊群落等を対象に水陸両用作業船を導入した機械駆除と、沿岸群落を対象に淀川方式の実施による対応を実施する。

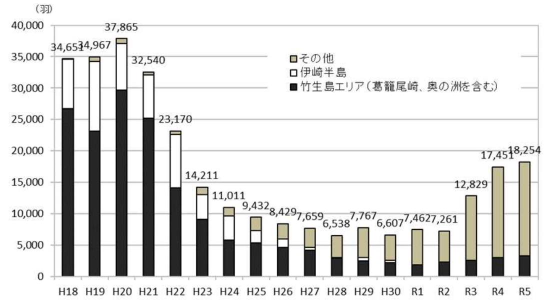
施策実施状況（滋賀県）　カワウ対策

Mother Lake 滋賀県

（1）カワウ

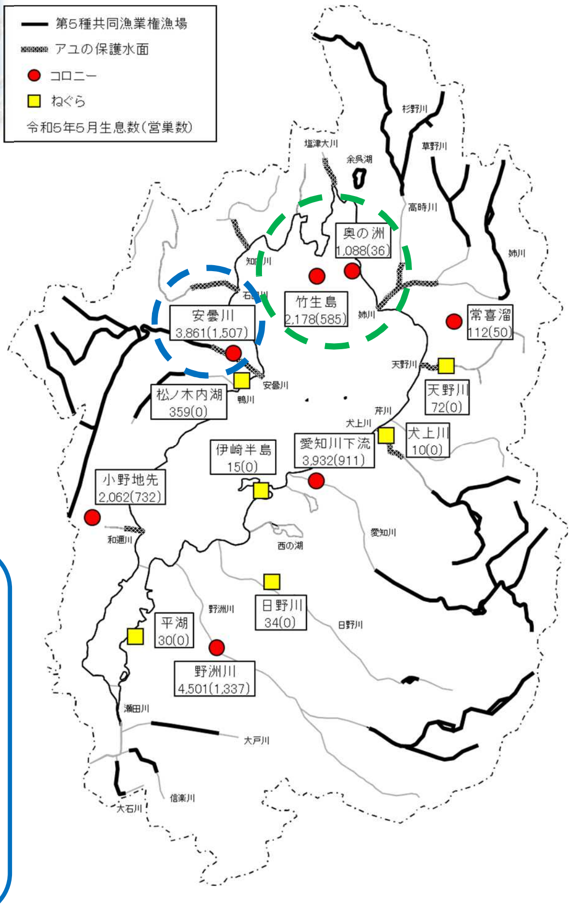
・1日に約500gの魚類を捕食　⇐　漁業への影響大
・集団で生活　⇐　鳴き声や糞害などの生活環境、
　高い繁殖力　　　糞の付着や枝折りなどの植生への影響大

（2）滋賀県春期（5月）カワウ生息数の推移



H18～H25ごろは主に竹生島エリアや伊崎半島に集中して生息
⇩
H25～H28ごろはその他のエリアの生息数も徐々に増加
⇩
H29～河川沿いのコロニーを中心に生息数が急増

従来の対策だけでは対応が困難な状況、かつ、全国でも事例が少なく、対策の知見が十分ではない大規模なコロニーでの対策が必要



（3）滋賀県の取組の一例

●継続している取組
　竹生島における銃器捕獲

【財源】鳥獣被害総合対策交付金（農水省）
【事業費】5,883千円（R5）
【事業概要】
　繁殖初期にエアライフルを使用し、主に成長を捕獲する。
【結果（速報）】
　10日間捕獲を実施し、2,811羽を捕獲

●新たな取組
　安曇川における住宅近くでの銃器捕獲のマニュアル整備等

【財源】鳥獣被害総合対策交付金（農水省）
【事業費】8,707千円（R5）
【事業概要】
　住宅近くでの銃器捕獲に係るマニュアル整備、試行的な捕獲、捕獲による影響をモニタリング調査。
【結果（速報）】
　6日間捕獲を実施し、2,474羽を捕獲

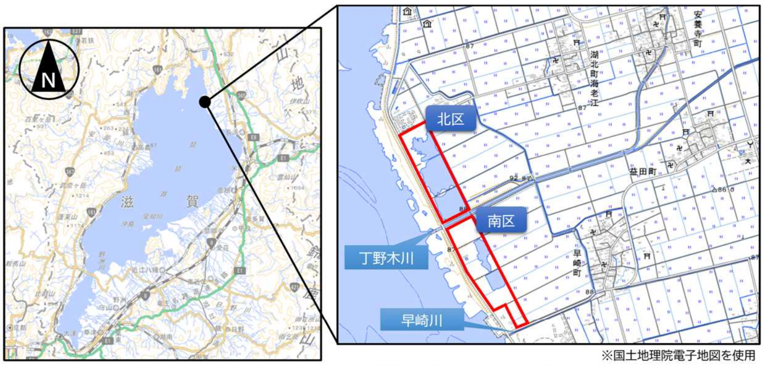
早崎内湖再生事業

概要

内湖などの湿地帯(エコトーン)は、琵琶湖固有の動植物、特に在来魚の産卵繁殖場として重要な役割を担うなど様々な価値を有している。

本事業は「琵琶湖保全再生施策に関する計画(第2期)」等　に基づき、干拓事業により消失した早崎内湖において、内湖本来の機能の保全と再生を推進することを目的として実施している。

本事業は国定公園である琵琶湖の生態系を含めた自然環境の保全につながる事業であることから、事業費の一部に自然環境整備交付金(環境省)を活用している。(国費:45%、県費:55%)



※国土地理院電子地図を使用

出典:国土地理院　出典:河川3月号,2002年3月(社)日本河川協会　出典:河川3月号,2002年3月(社)日本河川協会　出典:国土地理院

経年変化　航空写真(青線:昔の内湖境界　赤線:事業範囲)

整備方針

【北区】
なるべく自然の状態を維持できるよう人の手を加えず、<u>魚介類等の産卵、生育の場となるよう「自然環境を保全する場」</u>として再生。

【南区】
<u>人々が憩の場や環境学習の場、湿地を体験できる場等</u>として内湖を利用し、人々と内湖との関係を再構築する場として再生。

現状

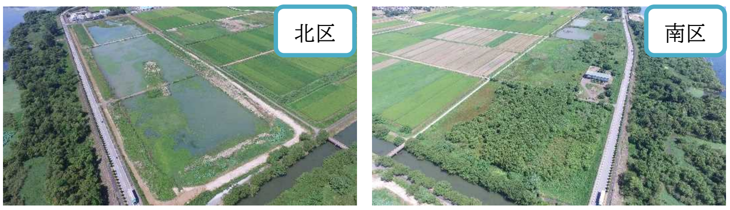
本事業は段階的に進め、事業の結果をモニタリングしながら必要に応じてその結果を事業にフィードバックする順応的管理で整備を進めている。

平成13年度から試験湛水を開始した結果、極めて良好な生物生息環境が再生されてきた。

恒久的な内湖化を図るため、平成25年度に用地(20ha)を取得し、平成29年度から内湖の北側である北区(10ha)から内湖化整備を開始している。

今年度から北区については令和7年度完成に向け仕上げの工事に着手しており、南区については地元住民等で構成される早崎内湖再生保全協議会と協議しながら、詳細計画の策定を進めている。

なお、本事業は令和15年度完成を予定している。



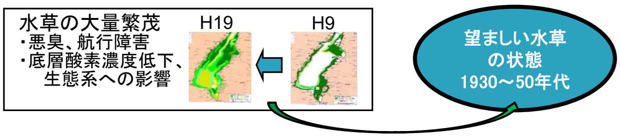
琵琶湖の水草等クリーンアップ事業

背景

水草の大量繁茂および侵略的外来水生植物の生育は、特に南湖において生活環境や漁業さらには生態系にも多大な影響を与えており、適正な状態に管理することが課題となっている。

このことから、関係機関連携による集中的な水草除去などによる改善を図るとともに、侵略的外来水生植物の徹底的な駆除や駆除済み区域の巡回・監視を行う。さらに、企業や大学などへ対策技術開発を求め、水草等対策の高度化を図る。

これらを通じて、望ましい水草の状態を目指すとともに、侵略的外来水生植物を管理可能な状況にまで減少させ、南湖の生態系・漁業の再生につなげる。



主要な事業の概要

1　暮らしを守るための除去

夏季の水草大量繁茂による航行障害や悪臭などの生活環境への悪影響を軽現するため、緊急性や公共性の高いところから表層刈取りを実施する。

1-1　水草刈取事業（琵琶湖保全再生課）　1-2　矢橋帰帆島中間水路維持管理業務　（下水道課）（一部根こそぎ除去）

2　生態系保全のための除去

湖流の停滞、湖底の泥化など自然環境や生態系への悪影響を改善するため、根こそぎ除去を実施する。

2-1　水草除去事業　（琵琶湖保全再生課）　2-2　補助河川総合流域防災事業（流域政策局）

3　漁場再生のための除去

水草除去や種苗放流を強化して、漁場の再生を図り、在来魚介類資源の回復を目指す。

3　琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクトの一部として実施　（水産課）

→ たい肥化等（1～3）

4　侵略的外来水生植物の除去

オオバナミズキンバイ等の外来水生植物の徹底的な駆除や駆除済み区域の巡回・監視を行い、管理可能な状況にまで減少させる。

4-1 侵略的外来水生植物戦略的防除推進事業　（自然環境保全課）
4-2 琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクトの一部として実施　（水産課）

→ 焼却等処分

5　知見等を活かす

水草たい肥の有効活用を図ることや、企業や大学などが実施する、水草等対策の新たな技術等の開発や研究等の支援を行うことなどで、水草等対策の高度化を図る。

5-1　水草等対策技術開発支援事業　（琵琶湖保全再生課）　5-2　水草資源循環促進事業（琵琶湖保全再生課）

→ 高度化

施策実施状況（滋賀県）　やまの健康2.0

森林の適正管理、林業の成長産業化、農山村の活性化が一体となった「やまの健康」の取組をバージョンアップ

森林の適正管理
Ver. UP!
間伐（保育）→ 主伐・再造林（資源循環）

循環林　環境林

ゾーニング
- 循環林（資源の循環利用を促進する森林）
- 環境林（自然のサイクルで維持される森林）

【多面的機能の発揮】
- ・環境林の整備
- ・計画的な間伐

【資源の循環利用】
- ・主伐・再造林
- 新 エリートツリー等種子生産
- 新 架線による集材・搬出支援

【安全・安心】
- ・ライフライン等保全のための予防伐採等

林業の成長産業化
Ver. UP!
公共建築 → 民間・非住宅

【川上】
活力のある林業の推進
- ・林業人材の育成
- ・木材生産力の向上

【川中】
加工・流通体制の整備
- ・加工・流通の人材育成
- ・ニーズに対応した加工・流通体制の整備

【川下】
幅広い県産材の利用
- ・木造建築設計への助言
- ・木造建築セミナー

農山村の活性化
Ver. UP!
農山村活動支援 → 都市部へ農山村の価値を提供

【都市とやまをつなぐ】
- ・木育の推進
  - 新 木育拠点施設の整備
    R5：展示内容検討、設計
    R6：施設改修、オープン（予定）
  - 木育指導者の育成

- ・森林空間等の資源を活用し都市と「やま」をつなぐ
  - 森林サービス産業の創出
  - やまの資源と都市とのマッチング
- ・企業の森づくり
  - 新 「やま」への関わり方を企業に提案
- ・森や緑にふれる機会の創出
  - 新 植樹等の森づくりイベントの開催

【農山村の魅力を高める】
- ・農村ＲＭＯ
  複数集落の機能を補完する「農村RMO(農村型地域運営組織)」の形成による魅力ある農山村づくり

施策実施状況（滋賀県）　滋賀ならではのツーリズム「シガリズム」の推進

「シガリズム」の提供を通じて、よりよい地域社会が実現し、
持続可能な観光を推進する滋賀県を目指す

シガリズム ～心のリズムをととのえる旅へ～

- ● シガリズムコンテンツの創出、効果的な情報発信

※シガリズムとは、「琵琶湖をはじめとした自然と歩みをそろえ、ゆっくり、ていねいに暮らしてきた、滋賀の時間の流れや暮らしを体感できる、"心のリズムを整える新たなツーリズム"」の総称。

フィッシャーアーキテクト　漁体験

滋賀・びわ湖 シガリズム SHIGA RHYTHM

ビワコパールサプライズ　核入れ体験

誰もが楽しめるビワイチ

- ● レンタサイクルの利便性向上など、受入環境の整備
- ● 「ビワイチの日、ビワイチ週間」の取組等によるビワイチの魅力向上
- ● 国内外に向けたビワイチ、ビワイチ・プラスの魅力発信
- ● 全国最初の自転車観光条例

BIWAICHI ビワイチ

世界農業遺産を活かした農林水産業の魅力発信

世界農業遺産

森・里・湖に育まれる 漁業と農業が織りなす 琵琶湖システム

世界農業遺産は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり発達し、形づくられた伝統的な農林水産業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農林水産業システムを国連食料農業機関（FAO）が認定する仕組みです。

本県では、水田営農に支えられながら発展してきた伝統的漁業を核とした「琵琶湖と共生する農林水産業」を「森・里・湖（うみ）に育まれる 漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」と呼んでおり、令和4年7月18日にFAOから「世界農業遺産」に認定されました。

漁業 伝統的な琵琶湖漁業

千年以上の歴史を持つエリ漁は、魚の習性を利用し、「つぼ」と呼ばれる部分で漁獲します。必要なサイズ・量だけを漁獲できる持続可能な漁法として、現代に受け継がれています。

林業 水源林の保全

水源林の保全には、漁業者や地域住民も参画しています。山に木を植えて育てることが洪水や渇水を防ぐことに役立っているほか、川に上って産卵する湖魚の繁殖環境の保全にもつながっています。

琵琶湖のエリ（定置網）と湖岸に広がる水田

水源林保全活動

鮒ずし

すし切り神事

農業 環境に配慮した農業

琵琶湖の水質や生態系を守るため、排水を管理し農薬や化学肥料を減らす「環境こだわり農業」やオーガニック農業、琵琶湖から田んぼに遡上して産卵する湖魚を支える「魚のゆりかご水田」などが営まれています。

食文化 伝統的な食文化とお祭り

「鮒ずし」に代表される湖魚をご飯に漬け込んで発酵させる保存食「なれずし」は、贈り物や祭礼のお供えにも使われてきました。こうした食文化や祭礼は、地域の絆の醸成にもつながっています。

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業は、国連の定めた持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標の達成に寄与しており、特に「6　安全な水を世界に」、「14　水産資源の保全」、「15　陸域生態系の保全」、「17　パートナーシップで目標を到達しよう」などの達成にも貢献しています。また、琵琶湖版SDGsであるマザーレイクゴールズ（MLGs）にも、大いに貢献しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

Mother Lake Goals

世界農業遺産を活かした農林水産業の魅力発信

農林水産業の魅力発信による担い手や関係人口の拡大

森・里・湖に育まれる 漁業と農業が織りなす 琵琶湖システム

新 次世代に繋ぐ「学び」の推進

- 学習教材の制作
- フローティングスクールとの連携
- ギャラリー展
- 出前講座

新 情報発信プラットフォーム

- 戦略的発信（SNS、ホームページ）
- 参加・交流型イベント

新 体感・体験ツアー

- 農業漁業体験
- ワーケーション
- 世界農業遺産メニュー

農林水産業の「ファン」の拡大

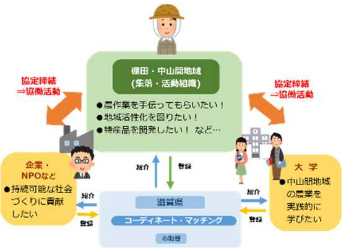
新 若者と農山村との「絆」の醸成

しがのふるさと応援隊事業
- 農山村版ワーキングホリデー
- 息の長い関係人口を創出
- 北部の振興

応援隊として地域との継続的な関係を構築！

協働活動をプロデュース

しがのふるさと支え合いプロジェクト
- 多様な主体と集落の協働活動



中山間地域の活性化、地域貢献の充実感を共有！

「お試し移住」

農山村の新生活様式サポート事業
- 農山村移住情報を発信
- お試し移住から移住へ
- 移住受入ガイド（仮）の作成

農業や地域活動に関わるライフスタイルを体験！

新しい時代に選ばれる農山村

- 多様な担い手の確保
- 関係人口の増加
- 県産品の消費拡大
- 次世代への引継ぎ

施策実施状況（滋賀県）　国立環境研究所連携推進事業

滋賀県

事業概要

国立環境研究所琵琶湖分室が設置されたことを契機として、共同研究や産学官金連携等による研究成果の活用・実用化を推進し、 地方創生を図る。

共同研究

水・湖底環境の健全性評価に関する研究

◇溶存有機物や栄養塩類の生物利用性と動態解析
◇全層循環停止メカニズムの推定や底層溶存酸素量の変動因子の把握　等

⇒国立環境研究所で培われた新規手法を用いて、水環境、湖底環境の現状を評価し、琵琶湖の環境保全・再生につなげる。

＜令和5年度＞
◇栄養塩供給と微生物動態の関連評価
◇全層循環シミュレーション解析　等

在来魚類の回復に向けた研究

◇在来魚の繁殖・生息場所の解明
◇DNA種判別等を活用したモニタリング手法の開発　等

⇒生態系の保全・再生に向けた基礎データの取得につなげる。

＜令和5年度＞
◇在来魚の分布・移動に関する調査・解析　等

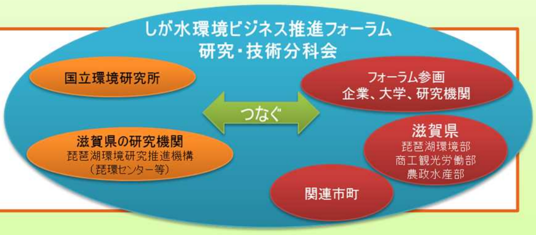
実用化を推進

しが水環境ビジネス推進フォーラム研究・技術分科会による技術開発等の推進

◇共同研究で活用された技術や研究成果、最新の技術的知見等の情報を共有
◇水環境技術の開発等を支援
◇滋賀発の水環境技術に係る製品・サービスのブランド化

⇒研究成果の水環境ビジネスへの活用、発信力の強化につなげる。
（水質測定機器の製品化、水処理技術の開発　等）

＜令和5年度＞
◇研究・技術分科会の運営
◇水環境技術ブランド化事業（プロダクツ選定等）の運用
◇水環境技術の開発等に係る支援制度（補助金）の運用



サイエンスエコビジネスの推進に向けた検討

◇科学的な知見を活用する「サイエンスエコツアー」の実施に係る課題整理
◇ガイド等の人材の掘り起こし、育成
◇サイエンスエコツアープログラムの検討、試行

⇒地域の自然資源や環境の保全と活用を両立した経済活動として、サイエンスエコビジネスの推進につなげる。

＜令和5年度＞
◇ガイド人材等の育成に係る事業の実施
◇サイエンスエコツアーのプログラム開発・試行　等

（イメージ）

施策実施状況（滋賀県）　マザーレイクゴールズ（MLGs）推進事業

滋賀県

1.マザーレイクゴールズ（MLGs）とは

MLGsは、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会へ向けた目標（ゴール）です。MLGsは「琵琶湖版のSDGs」として、2030年の環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環の構築に向け、独自に13のゴールを設定しています。

MLGsを通じてSDGsをアクションに落とし込む

MLGsを通じて自分たちの取組がSDGsにつながっていることに気付く

2. MLGs達成に向けた事業

〇MLGsの発信・広報
- MLGs賛同者の募集
  （1,472者：令和5年8月3日時点）
- 賛同者によるロゴマークの活用
  （256件：令和5年8月3日時点）
- MLGs WEB（MLGs専用サイト）やSNS,YouTubeでの発信
- 学生のライター起用
- 人気動画クリエイター出演の啓発動画の作成発信
- 学校や企業等からの依頼によるMLGs講演会の開催
- MLGsツーリズム教材の作成と発信
- MLGsワークショップの開催
- MLGs広報大使との連携事業
  （MLGs体操、伊藤三し米プロジェクト）
- 関係団体とのMLGsボードゲームの作成プロジェクト
- ショッピングモール等と連携した催事・展示イベント

MLGs WEB　TOP画面

〇MLGsの進行管理
- 学術フォーラムによるMLGsの評価
- 「MLGsみんなのBIWAKO会議」における様々な関係者とのMLGsの評価の共有

MLGs みんなのBIWAKO会議/COP1